

# 佐賀西高だより

URL <https://www.education.saga.jp/hp/saganishikoukou/>

学校だより 第140号  
令和8年1月26日  
佐賀西高等学校  
佐賀市城内一丁目4番25号  
電話番号(0952)24-4331  
発行・編集 広報研修部

## 修学旅行

12月9日(火)～12日(金)、2年生は福島・千葉・東京へ3泊4日の修学旅行に行きました。もちろんディズニーランドではおもしろい楽しんでいたのですが、福島での震災学習や最終日のコース別主研修も、学びの多い、印象に残るものになったようです。新たな視点を得た2年生の今後に期待します。以下、✿は生徒の感想です。

✿私たちは2日目に福島県の海岸近くにある請戸小学校に行きました。1階の教室や給食センターは被災当時のままになっていて、被害の大きさがうかがえました。体育館のステージには「卒業式」のパネルがつるされたままになっていました。町の復興のために高校生が積極的に活動しているという話をきいて、私も、知らない町の話ではなく、自ら知ろうとする姿勢を大事にしようと思いました。

✿いつもと同じメンバーで、いつもと違う数日間を楽しむことができ、とても素晴らしい思い出になった。

✿私が修学旅行で一番苦労したのはお土産探しです。姉から頼まれていたディズニーのグッズがホテルのショップにもランド内にも見つからず絶望しましたが、無事駅の方で見つけることができ、安心しました。が、帰りの空港内のショップに普通にありました。骨折り損です。姉が喜んでくれたので、よしとします。

✿1、2日目は福島に行きました。私たちはJビレッジの天然芝に目を奪われ、サッカーコートを駆け回りました。そして次の日の震災学習で、この美しい芝生はコンクリートやトラックによって無残な姿になったことを知り、衝撃を受けました。実際に被災地に行って貴重なお話とともに自分の目で見て学ぶことができたよい体験でした。



〔上〕震災遺構1 〔下〕原子力災害伝承館



〔上〕震災遺構2 〔下〕慰霊碑





J ビレッジ



ディズニーランド



食事の様子



バスで移動中



コース別研修

\*修学旅行も含め、各行事の写真と年間行事予定を学校  
HP 掲載しております。是非ご覧ください。





# 九州総文祭出場

今冬12月と昨夏6月、沖縄県で全九州高等学校総合文化祭が開催されました。本校生徒は、厳しい県予選（佐賀県高校総合文化祭）を突破し、弁論、放送、美術・工芸、書道、写真の5部門に出場することができました。

弁論部門に出場した仮屋沙香さんの原稿

## 自分とは何か

佐賀県 佐賀県立佐賀西高等学校 2年 仮屋沙香

私は昔から、インドア派でした。幼い頃、絵本の柔らかな絵とともに進む物語が大好きだったし、似顔絵を見せて微笑む母の顔が、大好きでした。そのこともあってか、作文や絵画は今、私の得意分野で、話すだけでは伝えられないことを伝えることができるところに、魅力を感じています。

その日も私は、鬼ごっこのお誘いを断り、本を借りに図書室に足を運んでいたのですが、そこには、私にとてつもない衝撃を与える本がありました。その本では、自分の体がバラバラになったとき、どれが自分なのか、を問いかけていました。そんなことを考えたこともなかった私にとって、その問いは今でも私の中に残り続けているのです。

私たちは漠然と、私たちの体全体が自分自身だと思っているでしょう。しかし、もし、あなたが事故にあって、腕が取れてしまったとき、友達が、真っ先に腕のほうに駆け寄って「大丈夫か?! 今体にくっつけてやるからな」と言ったらどうでしょうか。いや、腕が主体なのかよ、と少し複雑な気持ちになりませんか。

このように、体全体が自分、というわけではないようです。では、自分とは一体なんなのでしょう。

例えば、首が切られてしまったとき、どちらがより自分となるのでしょうか。体積でいえば当然、胴体のほうが自分ということになります。しかし私たちは直感的に、頭のほうをその人だ、と認識すると思います。それならば、「自分」とは、頭なのでしょう。頭といっても、脳みそのなか、それ全体なのかで話は異なってきます。

頭全体なのだとしたらどうでしょう。例えば、全部分を整形して、髪型も変えてしまったら、その人ではなくなるのでしょうか。また、その頭すべてのパーツがそろっていなくても、その人だということになるのでしょうか。もちろんこの状態を想像するときは頭部のみしかありませんけれど、ほんとうにその人だということがわかるのでしょうか。

ならば、自分とは脳みそであるとおいてみましょう。現在、脳みその移植は行われていませんが、将来それが可能になって、脳みそだけが完全なる他人のものになったとき、その人はその人ではなくなってしまうのでしょうか。はたまた、脳みそのみの状態で、これは太郎さんです。と書かれていたら、かつての様に友達でいられるのでしょうか。

こうして考えてみると、なんだか全部、自分としてすっかりこなくなってきました。私たちが動かしている体は実は私たちではないのかもしれませんが、もはや、物理的な自分とは存在しないような気がします。それでは、ここで自分とは心だとしましょう。するとまた、話は難しくなってきます。他人にはその心が本当にその人だと認識できないからです。まず心とは何かすら曖昧だし、その人が演技でもしていたらもうお手上げです。

では、本当の自分とは何なのか。私は一つの説を考えました。私たちは芸術の分野で「自分を表現すること」を学んできました。私はそこにヒントがあるような気がするのです。芸術の授業では「自分を解き放って」「自分らしさを表して」などとよく言われます。私は、そこで表現したものは、まぎれもない「自分」だと思うのです。自分がした表現は、自分にしかできない。世界に一つだけの作品となるのです。どんなに怖い評論家でも、自分を表したものに向かって「それはあなたではない」と言うことはないでしょう。私が本や絵画を愛する理由の真髄は、ここにあるのだと思います。これは自分を表現した作品だ、と本人が言っていれば、それはその人自身となる、そういった、芸術の気ままな形に、ひかれていたのです。

これが、私たちが芸術を学ぶ意味だと思います。芸術的な人ほど、何を考えているかわからず、感情がないように見えるのは、自分がどこにあるかを、理解しているからだだと思います。どこまでが自分なのかを知れば、他人との違いを理解することができます。自分についての表現方法をたくさん知れば、世界の表現方法も知ることができます。自分の見る世界を、自分のものとして表現することができるのです。芸術とは、誰にも否定されない絶対的な自分を生み出すことができる唯一のものだと思います。皆さんも、人生において自分を見失いそうになった時、ぜひとも、絵を描き、歌い、文字を書いてみてほしいです。芸術は、私たちが歩み寄りさえすれば、絶対的な味方となってくれると思います。



弁論: 仮屋沙香さん(2年4組)

当日、ステージで発表する様子



放送: 上西唯さん(2年1組) 西村優希さん(2年2組)

増田大翔さん・吉川航生さん(ともに1年5組) 会場前にて



[上]書道: 武廣奏凜さん(3年3組) 出品した作品といっしょに

[下]美術: 岡崎琳音さん(2年6組) 鑑賞交流会にて



写真: 田代フェアドンスコット海さん(3年1組)

岸川真之さん(3年7組) 被写体や構図を検討中



\*学校 HP に各行事の写真と年間行事予定  
を掲載しております。是非ご覧ください。

